



2015年3月期決算 プレゼンテーション資料

2015年4月
大阪ガス株式会社

I. 15.3期決算と16.3期見通し

インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています : 下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。<http://www.osakagas.co.jp/company/ir/>

「見通し」に関する注意事項 : このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

ガス販売量に関する注記 : 全て、基準熱量を45MJ/m³として、表記しています。

連結ガス販売量に関する注記 : 名張近鉄ガス・豊岡エネルギー・新宮ガスは12月決算です。

本日は、お忙しいところ、当社の決算説明会にお集まりいただき、ありがとうございます。

また、平素は、当社事業につき、ご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

この4月より、代表取締役社長に就任いたしました本荘でございます。

当社グループ社是の「サービス第一」の精神を旨として、全力を挙げて当社グループの発展に努めていく所存ですので、どうぞ変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

早速ですが、ただ今から、2015年3月期決算と、2016年3月期の見通しについて、ご説明させていただきます。

15.3期決算のポイント I

対前年比較

■ 概況

連結売上高	前年比1.0%増収の1兆5,281億円。
連結経常利益	ガス粗利益の増加などにより、前年比2.0%増益の1,081億円。 スライド差益は123億円発生(前年は205億円のスライド差損)。 なお、フリーポート気化事業の整理等に伴い、一時的な費用を計上。 会計利益への影響:15.3期:-64億円、16.3期:77億円(見通し)
連結当期純利益	投資有価証券の売却や前期に米国上流事業で減損損失を計上した反動などにより、前年比83.8%増益の767億円。
■ ガス販売量	
家庭用	前年比0.5%減少の2,186百万m ³ 。
商・公・医療用	夏場の気温が低めに推移し、空調需要が減少したことなどにより、前年比4.1%減少の1,465百万m ³ 。
工業用	一部IPPの契約満了に伴い、大口ガス販売→自家使用にカウント方法を変更したことや、お客さま設備の稼働が減少したことなどにより、前年比4.5%減少の4,133百万m ³ 。
■ その他	
配当	創業110周年を迎えるにあたり、15.3期末配当、16.3期中間・期末配当において、0.5円/株の記念配当を予定。 (15.3期・年間配当金:9.5円/株、16.3期・年間配当金:10円/株)

3

OSAKA GAS GROUP

2015年3月期は、増収、増益の決算となりました。

連結売上高は、前年と比べて1.0%増収の1兆5,281億円となりました。

連結経常利益は、ガス粗利益の増加などにより、前年と比べて2.0%増益の1,081億円となりました。なお、当社子会社が出資するフリーポートLNGデベロップメント社の気化事業整理に伴う、会計処理の見直しなどにより、2015年3月期に一時的な費用を計上しておりますが、2016年3月期には収益を見込んでいます。

連結当期純利益は、投資有価証券の売却や、前期に米国上流事業で減損損失を計上した反動などにより、前年と比べて83.8%増益の767億円となりました。

ガス販売量につきまして、家庭用は、前年を0.5%下回る21億8,600万立方メートルとなりました。

商業用・公用・医療用は、夏場の気温が低めに推移し、空調需要が減少したことなどにより、前年を4.1%下回る14億6,500万立方メートルとなりました。

工業用は、一部IPPの契約満了に伴い、大口ガス販売から自家使用にガスのカウント方法を変更したことや、お客さま設備の稼働が減少したことなどにより、前年を4.5%下回る41億3,300万立方メートルとなりました。

また、配当についてご説明いたします。

当社は今年10月に創業110周年を迎えます。株主の皆さまの長年にわたるご支援に感謝の意を表すため、2015年3月期末配当、2016年中間・期末配当において1株あたり0.5円の記念配当を実施いたします。

15.3期決算のポイントⅡ

対見通し(3/11公表)比較

■ 概況

連結売上高	ほぼ見通し並みの 1兆5,281億円 。
連結経常利益	個別における営業費用の減少や関係会社の利益増加などにより、 見通し比5.0%増益の1,081億円 。 スライド差益は123億円発生 (見通しのスライド差益は143億円)。
連結当期純利益	見通し比7.3%増益の767億円 。

■ ガス販売量

家庭用	見通し比1.0%減少の2,186百万m³ 。
商・公・医療用	見通し比0.9%増加の1,465百万m³ 。
工業用	見通し比0.3%減少の4,133百万m³ 。

■ その他

新規事業拡大投資	海外のエネルギー事業、国内の発電所建設への投資を中心に、 投資実行額は計924億円 。
----------	--

続きまして、3月に修正しました見通しとの対比でご説明します。

連結売上高はほぼ見通し並みとなりました。

連結経常利益は、個別において営業費用が減少したことや関係会社の利益が増加したことなどにより、見通しと比べて5.0%の増益となりました。

ガス販売量については、家庭用、商・公・医療用、工業用の各用途でほぼ見通し並みとなりました。

新規事業拡大投資につきましては、海外のエネルギー事業や国内の発電所建設などへの投資により、投資実行額は924億円となりました。

15.3期ガス販売実績

45MJ/m ³		A. 15.3期	B. 14.3期	前年差 A-B	前年比 (A-B)/B	C. 15.3期 見通し	見通し比 (A-C)/C
個 別	お客さま数(千件)	7,196	7,136	+60	+0.8%	7,185	+0.2%
	新設工事件数(千件)	107	102	+5	+4.6%	108	-0.9%
	家庭用1戸当り販売量(m ³ /月)	30.9	31.3	-0.3	-1.1%	31.3	-1.1%
	家庭用	2,186	2,198	-12	-0.5%	2,209	-1.0%
	商・公・医療用	1,465	1,528	-63	-4.1%	1,453	+0.9%
	工業用	4,133	4,329	-195	-4.5%	4,147	-0.3%
	業務用計	5,599	5,856	-258	-4.4%	5,599	+0.0%
	他ガス事業者向け	474	469	+4	+1.0%	473	+0.2%
	(うち大口供給)	(4,755)	(4,988)	(-233)	(-4.7%)	(4,765)	-0.2%
ガス販売量合計(百万m ³)		8,259	8,524	-265	-3.1%	8,281	-0.3%
連結ガス販売量		8,290	8,554	-264	-3.1%	8,312	-0.3%

ただ今ご説明しました、2015年3月期のガス販売実績をまとめておりますので、ご確認下さい。

連結のガス販売量は、前年を3.1%下回る82億9,000万立方メートルとなりました。

なお、ご参考資料として、31ページに、ガス販売量の月別の推移を用途別に示しておりますので、あわせてご覧ください。

15.3期実績 I

()内は連単倍率

連結:億円	A. 15.3期	B. 14.3期	前年差 A-B	前年比 (A-B)/B	C. 15.3期 見通し	見通し比 (A-C)/C
売上高	(1.22) 15,281	(1.24) 15,125	+155	+1.0%	15,355	-0.5%
営業利益	(1.31) 1,050	(1.64) 993	+56	+5.7%	1,030	+2.0%
経常利益	(1.23) 1,081	(1.53) 1,060	+21	+2.0%	1,030	+5.0%
当期純利益	(1.09) 767	(1.67) 417	+349	+83.8%	715	+7.3%
SVA	429	30	+399	+1332%	380	+12.9%
		A. 15.3期	B. 14.3期	前年差 A-B	C. 15.3期 見通し	見通し差 A-C
スライド差損益	億円	123	-205	+329	143	-20
原油価格	\$/bbl	90.4	110.0	-19.6	92.0	-1.6
為替レート	円/\$	109.8	100.2	+9.6	109.8	-0.1
連結子会社数		145	150	-5	---	---

15.3期原油価格実績は、3月速報値までの平均。SVA(Shareholders' value added)=NOPAT-投下資本×WACC。

こちらには、2015年3月期の決算数値をまとめておりますので、ご確認下さい。

15.3期実績 II

連結:億円	A. 15.3末	B. 14.3末	A-B	備考
総資産	18,622	16,683	+1,938	現金及び預金の増加など
自己資本	8,884	7,989	+895	
有利子負債	6,339	5,735	+603	
在籍人員(人)	20,982	21,250	-268	関係会社事業売却など
自己資本比率	47.7%	47.9%	-0.2	
D/E比率	0.71	0.72	-0.00	
	A. 15.3期	B. 14.3期	A-B	備考
設備投資	1,193	1,241	-47	前年・基幹導管が開通
減価償却費	877	838	+39	
フリーキャッシュフロー	1,122	1,131	-9	
ROA	4.3%	2.6%	+1.8	
ROE	9.1%	5.4%	+3.7	
EPS(円/株)	36.9	20.0	+16.8	
BPS(円/株)	427.0	383.9	+43.1	

FCF=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)-通常の設備投資による支出。

7

 OSAKA GAS
GROUP

資産・負債項目や、主な財務指標の実績は、ご覧の通りです。

自己資本は、前年を895億円上回る8,884億円となりました。

設備投資は、前年に三重・滋賀ライン、姫路・岡山ラインが開通し、基幹導管投資が減少したことなどにより前年を47億円下回る1,193億円となりました。

なお、ROAは、前年を1.8ポイント上回る4.3%、ROEは、前年を3.7ポイント上回る9.1%となりました。

16.3期経営方針

■ 重点課題

(1) 電力・ガスシステム改革への着実な準備

- エネルギー事業拡大を目指した対応：ITシステム・組織体制整備
- 導管事業の中立性向上：託送受付センター、託送情報センター設置

(2) 今後の成長が期待できる領域の事業拡大

- 電力事業
 - ・ 発電ビジネス：新たな電源の取得
 - ・ 電力販売ビジネス：電力小売事業の拡大
- 海外エネルギー事業
 - ・ アップストリーム：参画済み案件の推進、新たな権益の取得
 - ・ ダウンストリーム：東南アジアや北米を中心としたエリアでの事業参画
- 材料ソリューション事業：商品開発、事業運営効率化

2016年3月期は昨年3月に発表した、3カ年中期経営計画「Catalyze Our Dreams 2020」の2年目にあたります。

今後予定されている電力・ガスシステム改革に対して着実に備えていくとともに、国内エネルギー、海外エネルギー、ライフ&ビジネスソリューションの各分野で将来の成長に向けた事業の拡大に取り組んでいきたいと考えています。

16.3期見通しのポイント

■ 概況

連結売上高	LNG価格の下落に伴う、都市ガスやLNG・電力の販売価格下落などを織り込み、 前年比10.4%減収の1兆3,685億円。
連結経常利益	電力事業での減益などを織り込むものの、ガス粗利益や関係会社の利益の増加により、 前年比1.7%増益の1,100億円。 スライド差益の想定は400億円 (前年はスライド差益123億円)。
連結当期純利益*	前年・特別利益計上の反動などにより、 前年比4.2%減益の735億円。

* 親会社株主に帰属する当期純利益

■ ガス販売量

家庭用	平年気温を前提とし、 前年比0.7%増加の2,202百万m³。
商・公・医療用	お客様の省エネルギー推進の影響などを織り込み、 前年比1.3%減少の1,446百万m³。
工業用	新規需要開発やお客様設備の稼働増加などを織り込み、 前年比3.5%増加の4,280百万m³。

■ その他

新規事業拡大投資 海外エネルギー事業を中心に、**1,480億円の投資**を計画。

2016年3月期の具体的な見通しについてご説明いたします。

2016年3月期は、減収、経常利益は増益、当期純利益は減益の見通しです。

連結売上高は、LNG価格の下落に伴う、都市ガスやLNG、電力の販売価格下落などを織り込み、前年と比べて10.4%減収の1兆3,685億円を見込んでいます。

連結経常利益は、電力事業での減益などを織り込むものの、ガス粗利益や関係会社での利益の増加などにより、前年と比べて1.7%増益の1,100億円を見込んでいます。

連結当期純利益は、前年に有価証券の売却による特別利益を計上した反動などにより、前年と比べて4.2%減益の735億円を見込んでいます。

ガス販売量について、家庭用では、平年気温を前提としたことにより、前年を0.7%上回る22億200万立方メートルを見込んでいます。

商業用・公用・医療用は、お客様の省エネルギー推進の影響などを織り込み、前年を1.3%下回る14億4,600万立方メートルを見込んでいます。

工業用は、新規需要開発やお客様設備の稼働増加などを織り込み、前年を3.5%上回る42億8,000万立方メートルを見込んでいます。

新規事業拡大投資は、海外エネルギー事業への投資を中心に引き続き積極的に進めてまいります。投資額は1,480億円を計画しています。

16.3期ガス販売見通し

45MJ/m ³		A. 16.3期 見通し	B. 15.3期 実績	前年差 A-B	前年比 (A-B)/B
個 別	お客さま数(千件)	7,217	7,196	+21	+0.3%
	新設工事件数(千件)	101	107	-6	-5.3%
	家庭用1戸当り販売量(m ³ /月)	31.1	30.9	+0.1	+0.4%
	家庭用	2,202	2,186	+16	+0.7%
	商・公・医療用	1,446	1,465	-19	-1.3%
	工業用	4,280	4,133	+147	+3.5%
	業務用計	5,727	5,599	+128	+2.3%
	他ガス事業者向け	498	474	+24	+5.1%
	(うち大口供給)	(4,890)	(4,755)	(+135)	(+2.8%)
	ガス販売量合計(百万m ³)	8,427	8,259	+168	+2.0%
連結ガス販売量	8,459	8,290	+169	+2.0%	

2016年3月期のガス販売見通しを、こちらにまとめております。

連結ガス販売量は、前年を2.0%上回る84億5,900万立方メートルを見込んでいます。

16.3期見通し I

()内は連単倍率

連結:億円	A. 16.3期 見通し	B. 15.3期 実績	前年差 A-B	前年比 (A-B)/B
売上高	(1.29) 13,685	(1.22) 15,281	-1,596	-10.4%
営業利益	(1.53) 1,135	(1.31) 1,050	+84	+8.0%
経常利益	(1.31) 1,100	(1.23) 1,081	+18	+1.7%
当期純利益	(1.17) 735*	(1.09) 767	-32	-4.2%
SVA**	409	429	-19	-4.6%
スライド差損益 億円	400	123	+276	
原油価格 \$/bbl	65.0***	90.4	-25.4	
為替レート 円/\$	120.0	109.8	+10.2	

* 親会社株主に帰属する当期純利益

** SVA(Shareholders' value added)=NOPAT- 投下資本×WACC

*** 原油価格の前提 1Q:55\$/bbl、2Q:65\$/bbl、3Q以降:70\$/bbl

こちらには、収支等の見通し数値をまとめておりますのでご確認下さい。

前提となる原油価格は、年間平均で1バレルあたり65ドル、前提となる為替レートは、1ドルあたり120円としています。

16.3期見通し II

連結:億円	A. 16.3末見通し	B. 15.3末実績	A-B
総資産	18,665	18,622	+42
自己資本	9,167	8,884	+282
有利子負債	6,431	6,339	+91
在籍人員(人)	21,901	20,982	+919
自己資本比率	49.1%	47.7%	+1.4
D/E比率	0.70	0.71	-0.01
	A. 16.3期見通し	B. 15.3期実績	A-B
設備投資	1,253	1,193	+59
減価償却費	845	877	-32
フリーキャッシュフロー	1,295	1,122	+173
ROA	4.0%	4.3%	-0.3
ROE	8.3%	9.1%	-0.8
EPS (円/株)	35.3	36.9	-1.5
BPS (円/株)	440.5	427.0	+13.5

FCF=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)－通常の設備投資による支出。

12

 OSAKA GAS
GROUP

資産・負債項目や、主な財務指標の見通しは、ご覧の通りです。

設備投資は、海外上流案件の開発や国内で発電所の建設を進めることなどから、前年を59億円上回る1,253億円を見込んでいます。

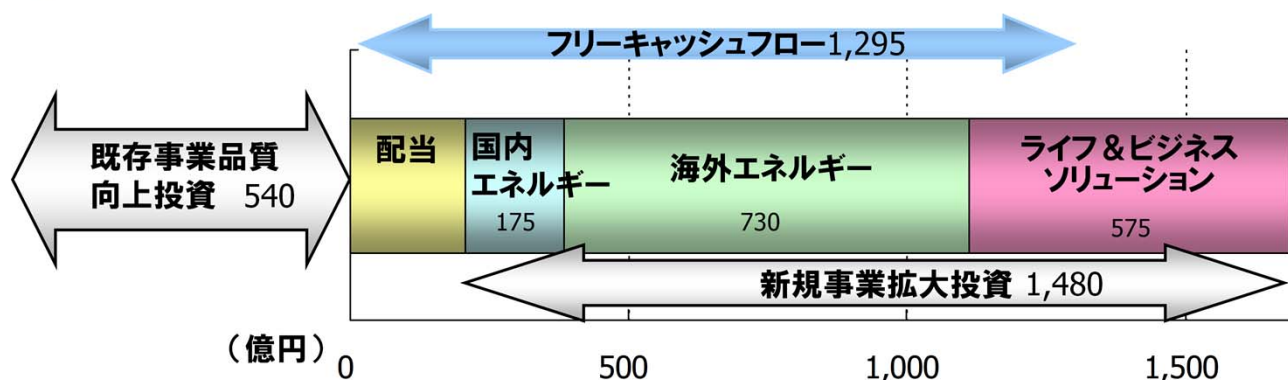
ROAにつきましては4.0%、ROEにつきましては8.3%を見込んでいます。

16.3期連結フリーキャッシュフローの使途

- 16.3期のFCFは、対前年+173億円の1,295億円となる見通し。
- 新規事業拡大投資は、1,480億円を計画。

国内エネルギー	発電所の建設など
海外エネルギー	上流開発、中下流事業投資など
ライフ&ビジネス ソリューション	収益不動産の取得など

- 記念配当を含めて年間10円/株(普通配9円/株、記念配1円/株)の配当を目指す。



フリーキャッシュフロー＝営業活動によるキャッシュフロー－通常の設備投資(既存事業品質向上投資)による支出。
投資額には設備投資案件と融資案件の両方を含むため、設備投資の計画値とは異なる。

最後に、フリーキャッシュフローの使途について、ご説明します。

2016年3月期のフリーキャッシュフローは、1,295億円となる見通しです。

また、前年を上回る総額1,480億円の新規事業拡大投資の実行を見込んでおり、これをフリーキャッシュフローと借入金で賄う予定です。

新規事業拡大投資については、約半分を海外エネルギー事業への投資に充てる予定です。既に参画を意思決定している上流案件の開発投資などを計画しています。また、本日、米国・メリーランド州において建設中の天然ガス火力発電事業へ参画することをプレスリリースいたしました。中下流事業への投資も進めていきたいと考えています。

また、国内エネルギー事業では、名古屋で石炭火力発電所の建設を進めるほか、新たな石炭火力発電所の建設に向けた準備を進めるために、電源開発様や宇部興産様と共同設立した山口宇部パワーへの出資を行い、事業化に向けた検討を進めてまいります。

ライフ&ビジネスソリューション事業では、収益不動産の取得のほか、先日プレスリリースいたしました水澤化学工業への出資など、材料ソリューション分野への投資などを進めていきます。

お手元には参考資料を添付しておりますので、後ほどご覧ください。

以上で、2015年3月期決算と、2016年3月期の見通しについてのご説明を終わらせていただきます。



II. 参考資料

直近トピックス I

■ 山口宇部パワー株式会社の設立（2月発表）

- 電源開発・大阪ガス・宇部興産による共同出資
- 発電事業の検討および準備を進めるための会社を設立

設立日	平成27年3月13日
出資比率	電源開発:45%、大阪ガス:45%、宇部興産:10%
事業内容	電気供給事業
発電設備(予定)	120万kW級(60万kW級×2基)石炭火力発電設備 超々臨界圧ボイラ採用
運転開始(予定)	2020年代前半

● 発電所建設予定地



写真提供:宇部興産

OSAKA GAS
GROUP

直近トピックスⅡ

■ 水澤化学工業の株式取得（4月発表）

- 大阪ガスケミカルが武田薬品工業より54.2%の株式を取得し子会社化

● 水澤化学工業

事業内容	活性白土などの吸着剤製造販売、安定剤・樹脂添加剤の製造販売
売上高	101億円※(2013年度)

※売上内訳:吸着機能材(44%)・安定剤(28%)・樹脂添加剤(28%)

- 新たな事業の柱となる上、既存事業との間のシナジーが期待される



* 水澤化学工業の吸着剤は活性炭と、樹脂添加剤は保存剤との間にシナジーが期待できる

15.3期の売上高差異(対前年)

14.3期 → 15.3期 (差異)
15,125億円 15,281億円 (+155億円)

個別:+299億円

ガス売上高 +239億円
・原料費調整影響 +471億円
・数量差等 -231億円

その他売上高 +60億円
・電力売上 +108億円
・器具販売売上 -21億円
・LNG販売売上 -9億円

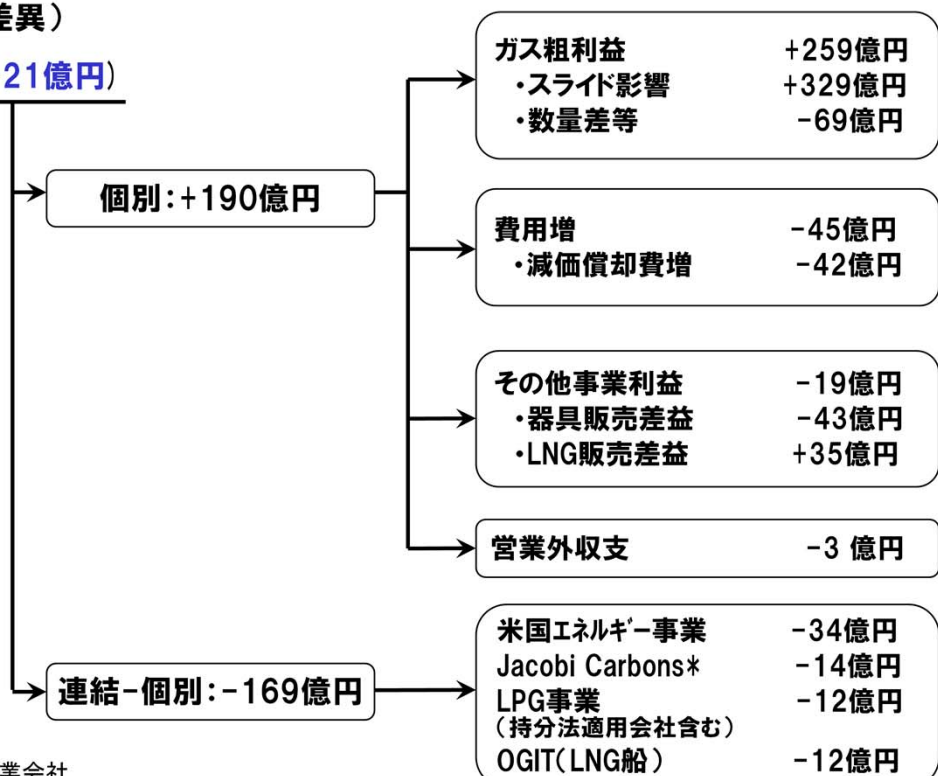
連結-個別:-144億円

LPG事業等 -92億円
OG行動観察研究所 -38億円

15.3期の経常利益差異(対前年)

+-の符号は、利益影響を表す。

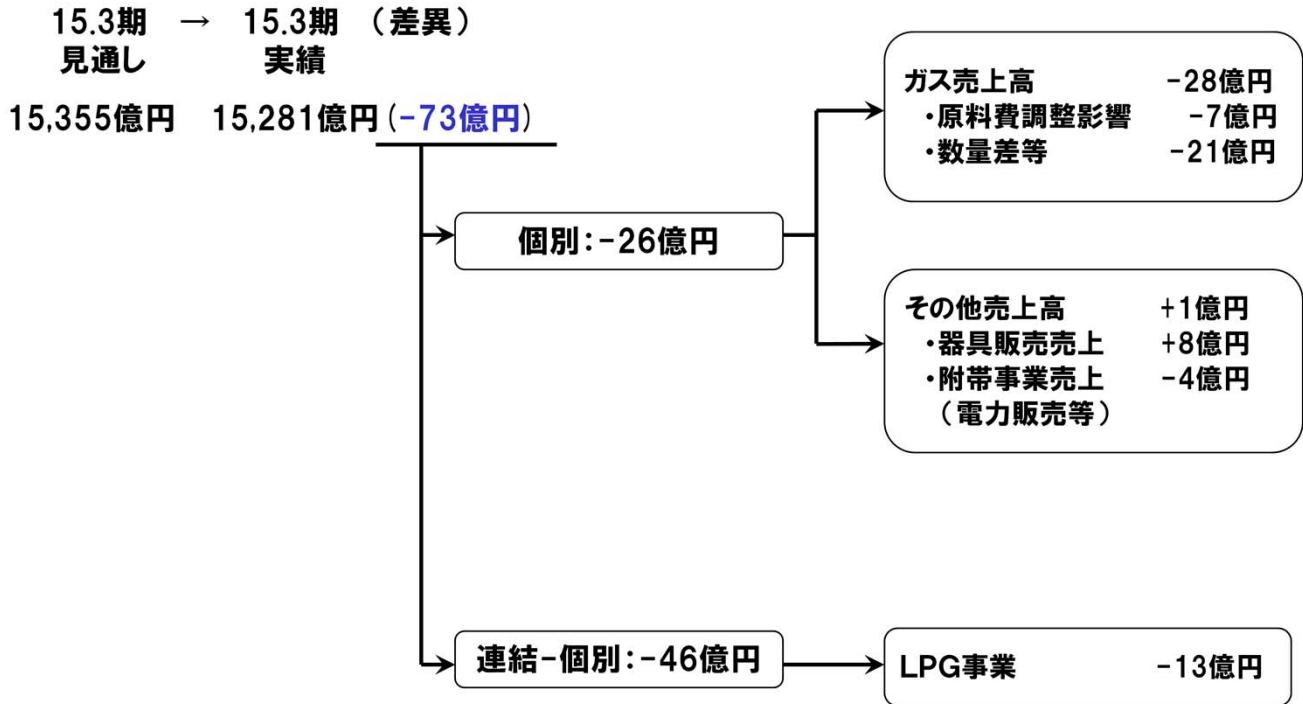
14.3期 → 15.3期 (差異)
 1,060億円 1,081億円 (+21億円)



*2014年1月に買収した活性炭事業会社

のれん償却費、棚卸資産のステップアップ(時価評価に伴う増加)による一時的費用等を含めた連結利益への影響額を記載

15.3期の売上高差異(対見通し)

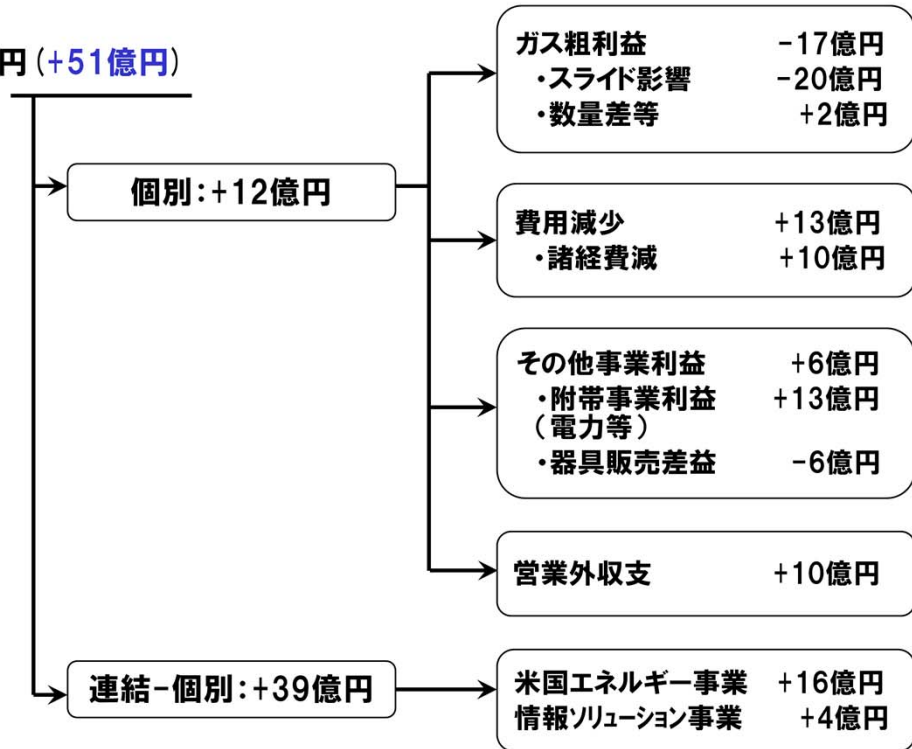


15.3期の経常利益差異(対見通し)

15.3期 → 15.3期 (差異)
見通し 実績

1,030億円 1,081億円 (+51億円)

+-の符号は、利益影響を表す。



15.3期セグメント別実績

単位:億円	売上高		セグメント利益(*)		備考
	15.3期	14.3期 (**)	15.3期	14.3期 (**)	
ガス	11,369	11,195	502	320	売上:ガス販売単価の上昇等 利益:スライド差損の解消
LPG・電力・ その他エネルギー	2,437	2,610	416	453	売上・利益:LPG事業等で減少
海外エネルギー	137	133	12	82	利益:フリーポート気化事業の 整理に伴う一時的減益
ライフ&ビジネス ソリューション	2,075	1,965	165	189	売上・利益:Jacobi Carbons新規 連結の影響(一時的費用増等により減益)
消去又は全社	-737	-779	22	27	
連結	15,281	15,125	1,120	1,072	

<再生可能エネルギー事業の取扱い>

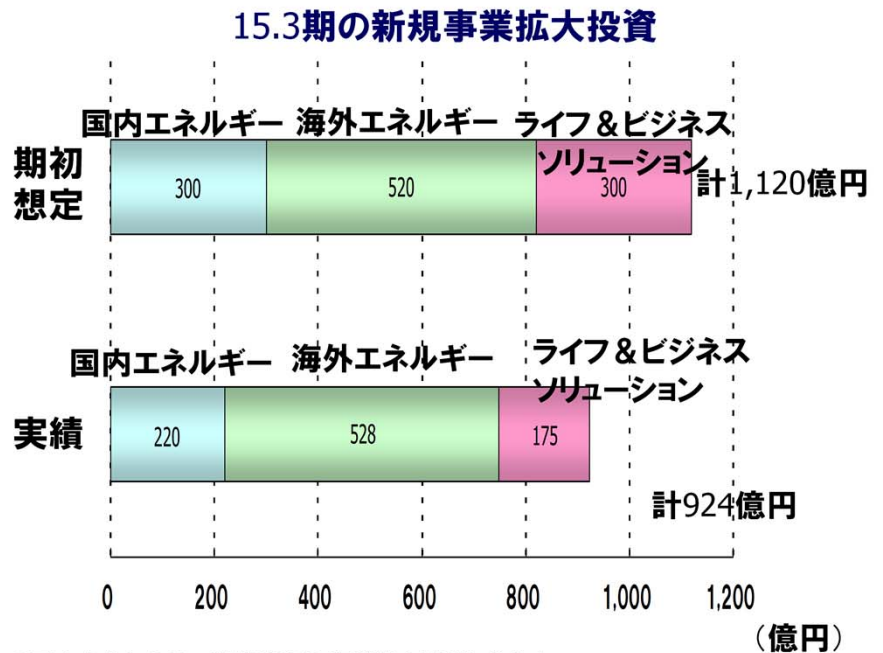
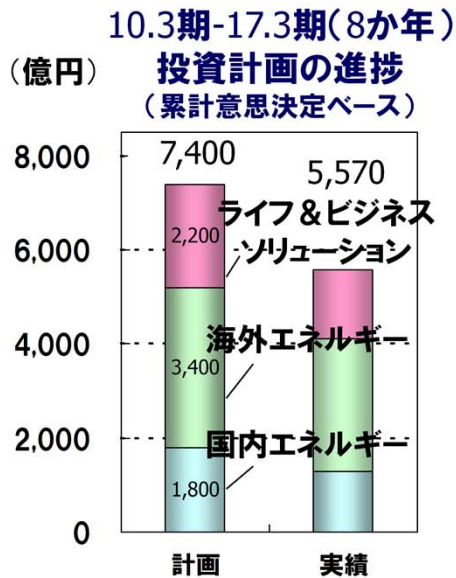
14.3期まで:「環境・非エネルギーセグメント」→15.3期以降:事業内容に応じ、「LPG・電力・その他エネルギーセグメント」「海外エネルギーセグメント」に移管
<セグメント名称の変更>

15.3期以降:「環境・非エネルギーセグメント」の名称を「ライフ&ビジネス ソリューションセグメント」に変更

(*)セグメント利益=営業利益+持分法投資損益、(**)14.3期実績を上記新基準に組み替えた値

15.3期新規事業拡大投資実績

- 10.3期-17.3期の意思決定済金額は5,570億円(対計画75%)。
- 15.3期の投資実行額は924億円(対計画83%)。

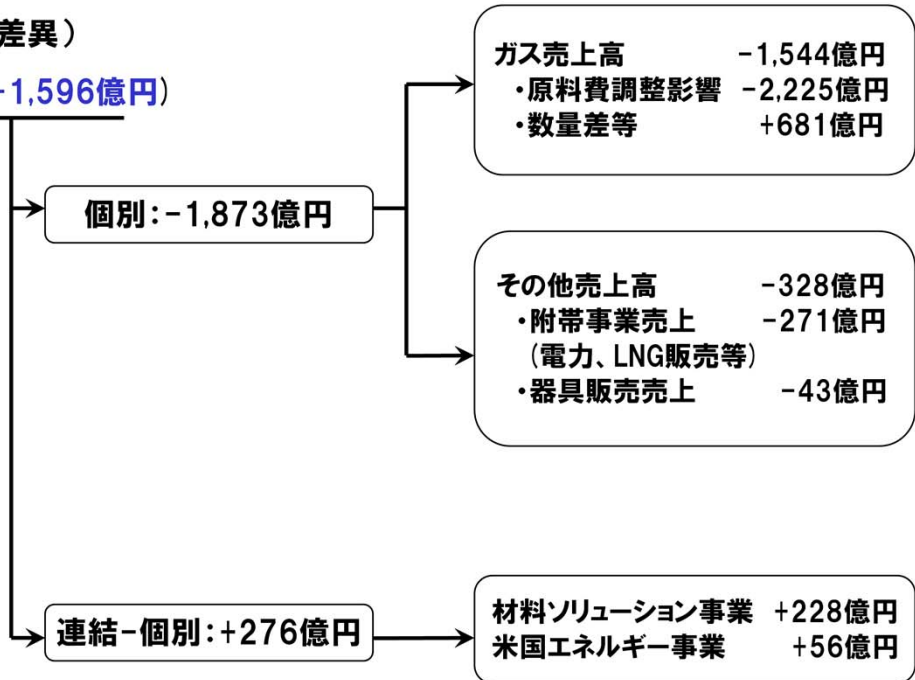


投資額には設備投資案件と投融資案件の両方を含むため、設備投資の実績値とは異なります。

16.3期売上高見通しの前年差異

15.3期実績→16.3期見通し(差異)

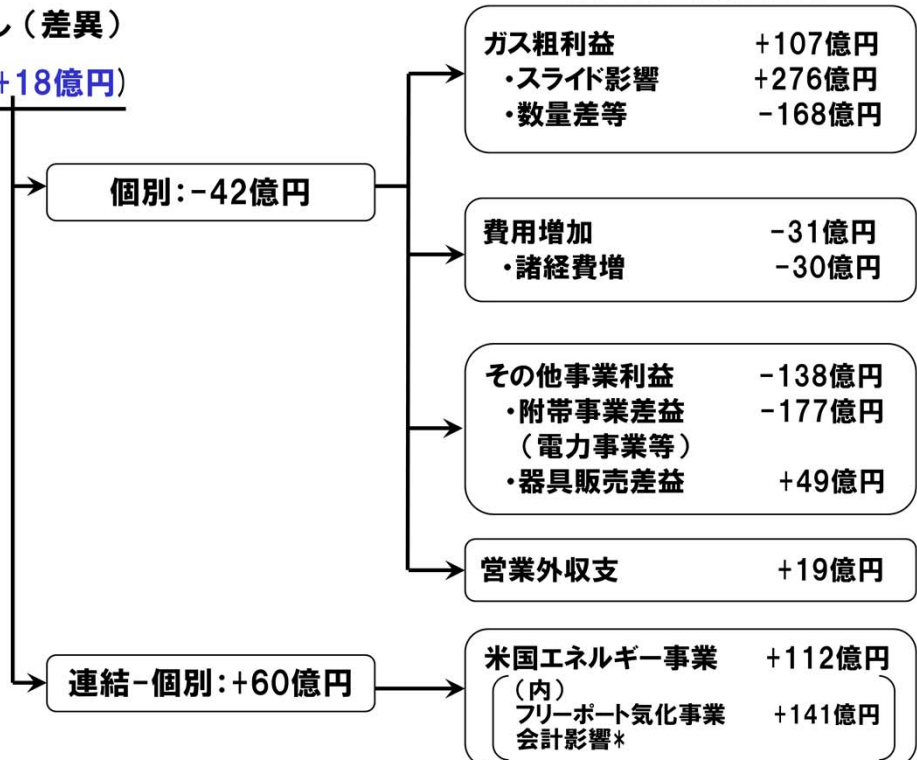
15,281億円 13,685億円 (-1,596億円)



16.3期経常利益見通しの前年差異

15.3期実績 → 16.3期見通し（差異）
 1,081億円 1,100億円 (+18億円)

+-の符号は、利益影響を表す。



*会計利益への影響額 15.3期:-64億円、16.3期:77億円(見通し)

16.3期セグメント別見通し

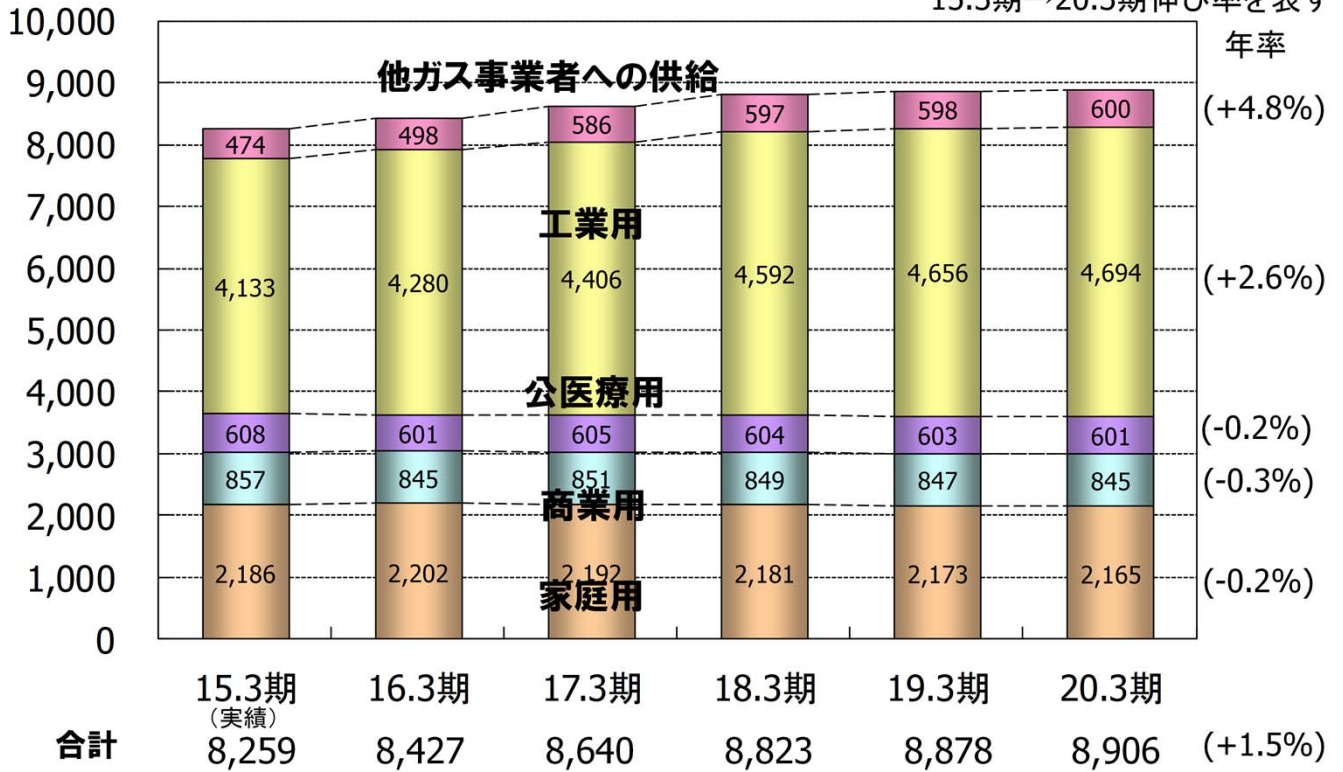
単位:億円	売上高		セグメント利益(*)		備考
	16.3期 見通し	15.3期 実績	16.3期 見通し	15.3期 実績	
ガス	9,740	11,369	610	502	売上:ガス販売単価の低下 利益:スライド差益の拡大
LPG・電力・ その他エネルギー	2,130	2,437	255	416	売上:電力事業・LNG販売で減少 利益:主に電力事業で減少
海外エネルギー	215	137	85	12	売上・利益:前期・米国エネルギー 事業での会計処理影響
ライフ&ビジネス ソリューション	2,295	2,075	205	165	売上・利益:材料ソリューション 事業等で増加
消去又は全社	-695	-737	20	22	
連結	13,685	15,281	1,175	1,120	

(*)セグメント利益=営業利益+持分法投資利益

個別ガス販売量の中期見通し

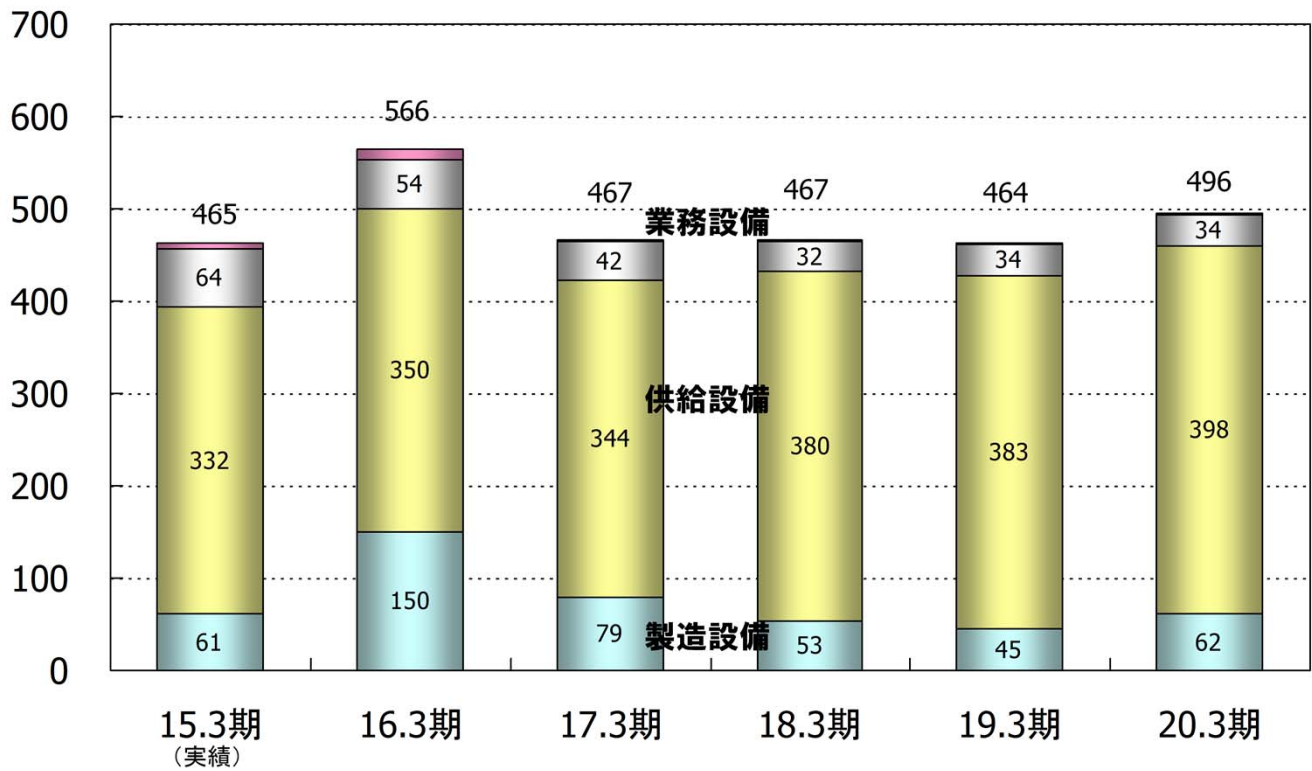
(45MJ, 百万m³)

グラフ右欄外の()内は、
15.3期→20.3期伸び率を表す



個別設備投資の中期見通し

連結：億円



家庭用ガス販売

15.3期実績

	対前期	備考
調定件数	+0.5%	
気温影響	- 0.4%	年間平均気温16.8度(前期17.1度)
その他	- 0.7%	
合計	- 0.5%	



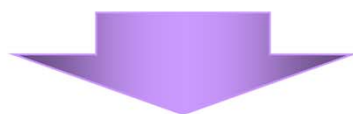
16.3期見通し

- 平年気温を前提とすることにより、冬期のガス販売量が増加するものと想定し、前年比+0.7%、16百万m³増の2,202百万m³を見込む。

商・公・医療用ガス販売

15.3期実績

	対前期	備考
需要開発	+0.2%	
気温日数影響	- 2.8%	
その他	- 1.5%	お客さま設備の稼働増減、省エネルギー推進など
合計	- 4.1%	



16.3期見通し

- 平年気温を前提として、お客さまの省エネルギー推進の影響などを織り込み、前年比-1.3%、19百万m³減の1,446百万m³を見込む。

工業用ガス販売

15.3期実績

	対前期	備考
需要開発	+1.2%	他燃料からの転換など
稼働増減等	- 3.1%	
その他	- 2.6%	
合計	- 4.5%	

主な業種別実績 (45MJ, 百万m³)

	販売量	販売量 構成比	対前期比
機械	332	8.0%	95.4%
金属	1,006	24.3%	99.1%
ガラス	302	7.3%	89.7%
化学	1,190	28.8%	96.9%
食品	516	12.5%	99.5%

16.3期見通し

- 新規需要開発やお客さま設備の稼働増加を織り込み、前年比+3.5%、147百万m³増の4,280百万m³を見込む。

15.3期月次ガス販売の推移

前年同月比 (%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	
家庭用	99.9	91.5	101.6	99.8	105.4	108.8	105.8	103.9	97.1	98.6	100.4	97.0	99.5	
商・公・ 医療用	98.0	95.0	95.8	94.9	93.5	90.7	93.4	96.6	94.4	101.3	99.9	97.8	95.9	
工業用	97.4	97.4	101.6	93.3	94.7	95.8	96.0	96.0	97.7	92.7	92.0	92.4	95.5	
業 種 別	機械	92.3	93.3	104.3	92.1	92.5	97.4	95.2	87.0	100.6	95.8	93.7	100.3	95.4
	金属	102.3	101.7	110.4	100.8	100.2	98.8	98.6	96.0	97.3	93.9	95.6	95.0	99.1
	ガラス	90.9	89.6	87.2	84.0	90.1	88.9	87.8	88.6	98.2	92.6	89.3	90.9	89.7
	化学	95.6	97.3	100.7	94.0	100.2	96.6	100.1	98.7	103.1	94.2	90.7	93.4	96.9
	食品	99.0	99.4	102.5	97.4	98.3	102.5	99.9	98.8	100.3	96.9	98.5	101.0	99.5
卸	91.5	97.3	121.5	94.3	99.0	103.6	102.4	91.0	113.5	94.9	101.2	106.5	101.0	
計	98.0	95.3	101.6	94.6	95.9	96.5	97.5	97.7	97.9	96.5	96.7	95.5	96.9	

年度見通しに対するリスク要因

- **気温・水温**
 - 気・水温1度の変化に対して、家庭用ガス販売量は、春秋期約5%・夏期約6%・冬期約4%変動する可能性がある。
- **原油価格**
 - LNG価格が原油価格にリンクすることなどから、原油価格+1\$/bblの変化に対して、16.3期の連結経常利益は-8億円変動する可能性がある。
- **為替レート**
 - LNG価格が米ドル・円の為替レートにリンクすることなどから、為替レート+1円/\$の変化に対して、16.3期の連結経常利益は-8億円変動する可能性がある。
- **原料費**
 - 原料費調整制度によって、中長期的には原料費の変動はガス料金に転嫁されるが、反映までのタイムラグや原料調達先の構成によって、業績に影響を与える可能性がある。
- **金利**
 - 金利1%の変動に対して、16.3期の連結営業外費用が年間7億円変動する可能性がある。